

小・中学校における「いじめ未然防止プログラム」の 実践の試み

—プログラム実施による効果と生徒指導への適用に向けた考察—

寺戸 武志*・永浦 拡**・松本 剛***・秋光 恵子***

(令和6年1月18日受付；令和6年4月1日受理)

要 旨

本研究の目的は、「いじめ未然防止プログラム」による児童生徒の11の資質・能力といじめ防止意識の変化を検証し、本プログラムの改訂版生徒指導提要における生徒指導の枠組みへの適用を考察することであった。小学校高学年4クラス54名、中学校全学年9クラス252名の児童生徒、及び各クラスの授業者である教員13名を対象とし、本プログラムの実践と調査が行われた。クラスごとに分散分析を試みた結果、授業のねらいとした資質・能力が向上したクラスは認められなかったが、13クラス中11クラスにおいていずれかの資質・能力の向上が認められた。また、11の資質・能力の向上といじめ防止意識とにポジティブな相関が示された。これらのことから、本プログラムによる11の資質・能力の向上の可能性が示唆された。また、本プログラムの発達支持的生徒指導と課題予防的生徒指導への適用について考察された。

KEY WORDS

Bullying Prevention Program いじめ未然防止プログラム, 11 qualities and abilities 11の資質・能力,
Awareness of bullying prevention いじめ防止意識, Application to Student Guidance 生徒指導への適用

1 問題と目的

学校におけるいじめ被害は、抑うつや自傷のリスク⁽¹⁾、不登校⁽²⁾、自尊感情の低下⁽³⁾など様々な教育課題との関連が報告されており、児童生徒の心身に大きな影響を及ぼすと指摘されている。2022年度のわが国におけるいじめ重大事態の発生件数は923件と増加傾向を続けており、いじめの早期発見・早期対応、未然防止に対する取組が求められている⁽⁴⁾。2022年度、このような状況下で生徒指導提要が改訂され⁽⁵⁾、生徒指導の枠組みは発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育・課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導による2軸3類4層構造に改められた。生徒指導提要（改訂版）では、先手型の常態的・先行的な生徒指導の重要性とその位置づけが明示され、いじめへの対応については、未然防止教育として「児童生徒自身が自分の感情に気づき適切に表現することについて学んだり、自己理解や他者理解を促進したりする心理教育の視点を取り入れたいじめ防止の取組」の重要性が指摘されている⁽⁵⁾。

本邦の学校現場では、包括的な問題行動の予防や社会性の向上をねらいとした「サクセスフル・セルフ」⁽⁶⁾や「SEL-8S」⁽⁷⁾などに代表される心理教育プログラムを用いた教育実践が進められている。しかし山崎ら（2013）は、長期間実施できるプログラムがなく、教員が容易に実施できるスキル状況でもないことなど、学校における心理教育の課題を指摘している⁽⁸⁾。いじめ問題に対する心理教育に関しては、有効性が実証されたいじめ予防プログラムの実施に関する課題について指摘⁽⁹⁾もあり、いじめ問題に対する心理教育プログラムに関する有効性の実証に加えて、学校特有の課題を解決することに向けたプログラムの開発・構成とその効果検証の推進が求められるところである。

このような学校における心理教育の状況において、兵庫県教育委員会（2015）は、いじめ予防を目的とした心理教育プログラムとして「いじめ未然防止プログラム」（以下、本プログラム）を開発した⁽¹⁰⁾。本プログラムは、いじめ未然防止に向けて、児童生徒に育みたい「セルフコントロール能力」や「相談・支援を求める力」などを含む計11種の資質・能力（以下、11の資質・能力）⁽¹¹⁾の醸成をねらいとし、学校種やクラスの状態に応じた授業案を提供している。また、児童生徒やクラスの11の資質・能力の現状を把握し、適切な授業を選択するためのアセスメントツールであるCoCoLo-34⁽¹²⁾⁽¹³⁾及びCoCoLo-J⁽¹⁴⁾や、授業展開に対する教員の理解を支援する「教師用映像補助資料」も合わせてweb公開し、教員が教育プログラムを選択・考案できるような工夫がされている。

寺戸・永浦（2020）は、小学校4年生1クラス20名の児童を対象として、教員によって実施された本プログラム実

*学校教育学系 **北海道教育大学大学院 ***兵庫教育大学大学院

践の効果について検討している⁽¹⁵⁾。本研究では実践教員へのインタビュー調査により、プログラム実施によるポジティブな行動の変化を示した児童の存在が確認された。一方で、本プログラムの実践の前後でCoCoLo-34における有意な変化は認められず、いじめの加害、被害、個人による傍観、学級による傍観などに関するいじめ防止意識と本プログラム実践との関連についても言及されていない。児童生徒の資質・能力の向上によるいじめ予防を目的としている本プログラムの有効性及び実効性を確かめるためには、11の資質・能力やいじめ防止意識への効果検証、及び本プログラムの生徒指導の枠組みにおける発達支持的生徒指導及び課題予防的生徒指導への適用の可能性をさらに検討する必要があることが示された。また、その際には、複数校の実践結果を比較し、それらのデータを俯瞰的に精査するなど、さらに精緻な検証が必要である。

そこで本研究では、複数の小・中学校に本プログラムを導入し、有効性及び実効性の検討を行うこととした。これを通して、本プログラム実施による児童生徒の11の資質・能力及びいじめ防止意識の変化を検証し、生徒指導の枠組みにおける本プログラムの適用の可能性について考察することを本研究の目的とした。

2 教育プログラムの実践経過

2.1 本プログラムの授業構成

本プログラムは、児童生徒にいじめをしない、させない、見逃さない態度を醸成するために、要の力となる「ストレスマネジメント能力」「セルフコントロール能力」「自尊感情・自己効力感」、他者への意識である「道徳性」「思いやり・他者理解」、他者と関わる力である「コミュニケーション能力」「思いや考えの表現力」「相談・支援を求める力」の8つの『個々の児童生徒の力』と「仲間づくり・絆づくりに資する力」「自治集団づくりに資する力」「規律性」の3つの『学級集団の力』による、11の資質・能力を育むことを直接的なねらいとしている⁽¹¹⁾。

本プログラムには、いじめ関係につながる恐れがあるような児童生徒の関係性を改善する内容や、いじめの構造に巻き込まれてしまわないような自分自身の構築への支援を行うことにつながる内容をもった授業実践の提案が多くを占めているものの、児童生徒に直接いじめ問題について考えさせるような授業プログラムの提案についてはほぼ含まれていない。本プログラムは、いじめ未然防止につながる11の資質・能力がバランスよく向上することをめざし、総合的な観点からのいじめ未然防止につなげるプログラム群とその活用の提示を行うものである⁽¹⁰⁾。

提案される授業案は、主たるねらいとする資質・能力と対象とする児童生徒の発達段階によって整理されており、多くの授業案は主たるねらいの他に副次的なねらいを併せ持っている。教員が対象クラスの課題となる資質・能力と授業案のねらいや内容を勘案し授業案が選択されることを想定して構成されている。

2.2 本プログラムによる実践

本プログラムは、対象校の教員によって実施された。本プログラムの使用方法に則って、①CoCoLo-34による事前アセスメント、②事前アセスメントの結果から課題となる資質・能力の確認、③対応する授業案の選択、④授業の実施、⑤CoCoLo-34による事後アセスメント、の順に行われた。各対象校における本プログラムの実施状況をTable1に示す。

3 方法

3.1 調査対象

A県B市の小学校2校の高学年4クラス54名、中学校2校全学年9クラス252名の児童生徒、及び各クラスの授業者である教員13名を調査対象とした(Table1)。

3.2 調査方法

3.2.1 調査用紙

【児童生徒用アンケート】本プログラムに付属しているアセスメントツールであるCoCoLo-34⁽¹³⁾を用いた。11の資質・能力である『個々の児童生徒の力』(「ストレスマネジメント能力」「セルフコントロール能力」「自尊感情・自己効力感」「道徳性」「思いやり・他者理解」「コミュニケーション能力」「思いや考えの表現力」「相談・支援を求める力」)に関わる認知や態度を問う23項目と、『学級全体の力』(「仲間づくり・絆づくりに資する力」「自治集団づくり

に資する力」「規律性」)に関わる状況を問う7項目、いじめ防止意識であるいじめの「加害」・「被害」・個人による傍観(以下、「個人傍観」)・学級による傍観(以下、「学級傍観」)の状況を問う4項目について「0:全然当てはまらない」「1:あまり当てはまらない」「2:だいたい当てはまる」「3:すごく当てはまる」の4件法で回答を求めた。

【教員用アンケート】本プログラムの実施状況について回答を求めた。「今回の授業で、児童生徒の資質・能力の向上がどの程度感じられましたか」の問いに対して「①ねらいとした資質・能力のみが向上したと感じた」、「②ねらいとした資質・能力だけでなく、他の資質・能力も向上したと感じた」、「③ねらいとしていなかった資質・能力のみが向上したと感じた」、「④いずれの資質・能力もほとんど向上を感じなかった」、「⑤その他」の選択肢の中から授業実施後の児童生徒の様子に対する教員の主観による見取りに最も近いものの選択を求めたのち、児童生徒の様子や言動の具体的な変化について自由記述で回答を求めた。

3. 2. 2 調査時期

調査は2022年9月～12月に実施された。上述の児童生徒用アンケートについては、授業実施の2週間前(pre)、2週間後(post)、2か月後(follow)の3回実施された。教員用アンケートについてはfollowの時期に1回実施された。

3. 2. 3 倫理的配慮

本研究は第1筆者所属機関の研究倫理審査委員会の承認(承認番号:2022-35)を得て実施された。

4 結果

4. 1 授業実施による資質・能力の変化

CoCoLo-34の資質能力得点を用いて、pre-post-followの時期における反復測定による分散分析をクラスごとに行った(Table2, 4)。その結果、W小6において「ストレスマネジメント能力」($F(2,28)=11.598, p<.001, \eta^2=.453$)、「セルフコントロール能力」($F(1.434,20.074)=7.963, p<.01, \eta^2=.363$)、Y中1Aにおいて「ストレスマネジメント能力」($F(2,48)=3.021, p<.05, \eta^2=.112$)、「自尊感情・自己効力感」($F(2,48)=4.646, p<.05, \eta^2=.162$)、「規律性」($F(1.435,34.447)=3.726, p<.05, \eta^2=.134$)、Y中1Bにおいて「道徳性」($F(2,40)=3.641, p<.05, \eta^2=.154$)、Y中2Aにおいて「相談・支援を求める力」($F(1.495,24.415)=9.570, p<.01, \eta^2=.360$)、Y中2Bにおいて「ストレスマネジメント能力」($F(2,44)=6.838, p<.01, \eta^2=.237$)、「セルフコントロール能力」($F(1.433,31.530)=6.671, p<.01, \eta^2=.233$)、「道徳性」($F(2,44)=4.921, p<.05, \eta^2=.183$)、「思いやり・他者理解」($F(1.527,33.600)=4.448, p<.05, \eta^2=.168$)、「規律性」($F(2,44)=4.245, p<.05, \eta^2=.162$)、Y中3Aにおいて「仲間づくり・絆づくりに資する力」($F(1.431,40.067)=3.618, p<.05, \eta^2=.114$)、Y中3Bにおいて「思いやり・他者理解」($F(2,48)=4.254, p<.05, \eta^2=.151$)の資質能力得点に有意な差が認められた。多重比較の結果、Y中1Aの「規律性」とY中2Bの「思いやり・他者理解」はpostと比較してfollowが有意に高かったが、その他はいずれもpreと比較してpostまたはfollowが有意に高かった。

次に、11の資質・能力がもともと低い児童生徒に対する効果を検討するため、preのそれぞれの資質能力得点の校種ごとの平均値を算出し、その平均値より低い児童生徒(以下、低群)のみを抽出し同様の分散分析を行った(Table3, 4)。

Table1 クラスごと実施状況

No.	クラス名	児童生徒数	実施した授業
1	W小5	13	私ってどんな人?
2	W小6	15	適切な表現方法
3	X小5	10	ねえ聞いて
4	X小6	16	私ってどんな人?
5	Y中1A	31	適切な表現方法
6	Y中1B	28	十年後の未来日記
7	Y中2A	30	十年後の未来日記
8	Y中2B	32	気持ちだけ聞いて
9	Y中3A	33	「考え方のクセ」を考えてみよう
10	Y中3B	34	様々な自己表現を知ろう
11	Z中1	19	上手に断ろう
12	Z中2	27	「考え方のクセ」を考えてみよう
13	Z中3	18	安心して相談し合える仲間になろう
計	13 クラス	306	

Table2 クラスごと（全体）の11の資質・能力（個々の児童生徒の力）のpre-post-follow分散分析結果

個々の力		W小5	W小6	X小5	X小6	Y中1A	Y中1B	Y中2A	Y中2B	Y中3A	Y中3B	Z中1	Z中2	Z中3
マスト レジメン ト能力	n	13	15	4	9	25	20	19	23	29	26	19	27	18
	pre	7.615 (1.758)	6.733 (1.751)	7.500 (1.291)	6.222 (2.108)	5.840 (2.115)	6.550 (1.701)	6.789 (2.016)	6.217 (1.783)	6.517 (1.902)	6.423 (1.748)	6.632 (2.140)	6.296 (1.589)	6.889 (1.745)
	post	8.385 (0.870)	7.600 (1.454)	8.500 (1.000)	6.778 (1.093)	6.480 (2.104)	6.800 (1.609)	7.368 (1.212)	7.087 (1.411)	6.517 (1.661)	6.346 (1.832)	6.579 (2.090)	6.778 (1.368)	6.667 (1.495)
	follow	8.077 (1.115)	8.200 (1.265)	8.000 (1.414)	7.000 (1.803)	6.600 (1.658)	6.750 (1.618)	7.632 (1.212)	7.391 (1.672)	6.448 (1.744)	6.500 (1.726)	7.211 (1.686)	7.111 (1.625)	7.167 (1.757)
	p	n.s.	*** (A)(B)	n.s.	n.s.	* (A)	n.s.	n.s.	** (A)	n.s.	n.s.	n.s.	* (-)	n.s.
セル フコン トロー ル	n	13	15	4	9	25	22	19	23	29	25	19	27	18
	pre	7.692 (1.437)	7.200 (2.305)	6.250 (1.893)	5.333 (2.398)	5.880 (2.108)	6.136 (1.807)	6.474 (2.294)	6.043 (2.142)	5.655 (2.159)	6.040 (2.150)	6.368 (2.385)	6.111 (2.242)	6.444 (1.790)
	post	7.308 (1.548)	8.000 (1.464)	7.250 (1.258)	6.222 (2.333)	6.120 (2.261)	5.955 (2.497)	6.895 (2.025)	6.957 (1.718)	5.310 (1.911)	6.400 (1.893)	6.673 (1.968)	6.407 (2.188)	6.556 (1.542)
	follow	8.077 (1.188)	8.733 (0.458)	6.750 (1.500)	6.000 (2.693)	6.600 (1.803)	5.682 (2.732)	7.368 (1.640)	7.043 (1.846)	5.483 (2.230)	6.040 (2.111)	6.842 (2.316)	6.556 (2.172)	7.278 (1.487)
	p	† (-)	** (A)	† (-)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	** (A)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	* (-)
自尊 感情・ 自己 効力感	n	13	15	4	9	25	21	19	23	29	24	18	27	18
	pre	6.615 (2.663)	6.667 (2.554)	6.250 (2.217)	4.667 (2.291)	5.600 (2.062)	5.238 (1.921)	5.263 (2.156)	5.043 (1.988)	4.310 (1.911)	4.750 (2.111)	6.444 (1.947)	5.370 (1.523)	6.000 (2.169)
	post	6.615 (2.501)	7.600 (1.404)	5.000 (4.082)	4.667 (2.291)	6.280 (2.011)	5.524 (2.089)	5.211 (2.371)	5.087 (2.021)	4.000 (1.732)	4.750 (2.132)	6.667 (1.879)	5.630 (1.471)	6.111 (2.026)
	follow	7.385 (1.660)	7.733 (1.335)	5.000 (3.559)	5.667 (2.345)	5.840 (2.173)	5.381 (2.692)	5.579 (2.589)	5.217 (1.678)	4.207 (1.656)	5.250 (2.327)	6.889 (1.967)	5.444 (1.761)	6.333 (2.114)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	† (-)	* (B)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	† (-)	n.s.	n.s.	n.s.
道徳 性	n	13	15	4	9	24	21	19	23	29	25	19	27	18
	pre	7.462 (1.941)	7.067 (1.710)	7.500 (1.000)	6.889 (1.691)	6.667 (1.435)	6.286 (1.189)	6.105 (1.853)	5.609 (1.616)	5.517 (2.011)	5.080 (1.869)	6.263 (1.881)	6.667 (1.387)	6.000 (1.572)
	post	7.769 (1.691)	7.267 (2.052)	7.750 (0.957)	6.778 (2.167)	6.708 (2.074)	6.667 (1.683)	6.368 (2.290)	6.391 (1.672)	5.621 (1.449)	5.600 (1.732)	6.526 (1.896)	6.556 (1.476)	6.278 (2.137)
	follow	8.231 (1.166)	7.800 (1.521)	8.000 (0.816)	7.000 (2.000)	6.625 (1.813)	7.238 (1.411)	6.368 (2.338)	6.565 (1.237)	5.517 (1.883)	5.600 (1.555)	6.842 (1.834)	6.741 (1.403)	6.333 (1.680)
	p	n.s.	* (-)	n.s.	n.s.	n.s.	* (A)	n.s.	* (A)	n.s.	* (-)	n.s.	n.s.	n.s.
他思 いや り・ 理解	n	13	15	4	8	25	22	19	23	29	25	19	27	18
	pre	8.231 (1.013)	7.667 (2.093)	8.000 (1.155)	6.500 (2.726)	6.520 (1.806)	6.227 (1.541)	6.789 (1.782)	6.261 (1.711)	5.276 (1.888)	4.880 (2.242)	7.105 (2.355)	5.778 (1.577)	6.444 (1.542)
	post	8.385 (1.121)	8.067 (1.223)	8.000 (2.000)	7.000 (2.000)	6.280 (1.926)	6.773 (1.716)	6.263 (1.968)	6.174 (1.825)	5.172 (1.466)	5.240 (2.047)	7.211 (2.016)	5.741 (1.583)	6.111 (1.491)
	follow	8.077 (1.256)	7.867 (1.642)	8.250 (1.500)	7.875 (1.642)	6.640 (1.800)	6.864 (1.807)	6.579 (2.090)	6.739 (1.544)	5.379 (1.568)	5.640 (1.630)	6.947 (2.223)	5.926 (1.492)	6.167 (1.383)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	* (-)	n.s.	† (-)	n.s.	* (C)	n.s.	* (A)	n.s.	n.s.	n.s.
コ ミ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力	n	13	15	4	9	25	23	19	23	29	25	19	27	18
	pre	8.308 (0.751)	8.333 (1.113)	8.750 (0.500)	8.333 (0.707)	7.600 (1.190)	7.435 (1.161)	8.000 (1.155)	7.783 (1.166)	7.310 (1.491)	7.200 (1.555)	8.211 (1.512)	7.630 (1.214)	7.889 (1.132)
	post	8.615 (0.650)	8.800 (0.414)	8.250 (0.500)	8.000 (1.803)	7.480 (1.418)	7.435 (1.308)	8.526 (0.772)	7.957 (1.186)	7.241 (1.480)	7.560 (1.121)	8.053 (1.268)	8.037 (1.160)	7.778 (1.215)
	follow	8.462 (0.967)	8.667 (0.617)	8.500 (1.000)	7.889 (2.088)	7.440 (1.660)	7.522 (1.410)	8.316 (0.946)	8.087 (1.164)	7.414 (1.637)	7.280 (1.487)	8.211 (1.357)	7.815 (1.331)	7.722 (1.320)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	† (-)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	† (-)	n.s.
表 現 力 思 い や 考 え の	n	12	15	4	9	25	21	19	23	29	25	19	27	18
	pre	5.917 (1.730)	5.467 (1.846)	5.750 (2.986)	5.111 (2.261)	5.680 (1.842)	6.095 (1.921)	6.105 (1.629)	5.696 (2.363)	5.172 (2.479)	5.200 (2.198)	5.263 (2.705)	5.630 (1.884)	5.556 (2.255)
	post	5.750 (2.527)	6.267 (1.870)	5.000 (0.816)	5.222 (1.716)	5.880 (1.764)	5.524 (2.250)	5.632 (1.921)	5.696 (2.285)	4.897 (1.760)	5.600 (1.756)	5.211 (2.394)	5.852 (2.013)	5.500 (2.007)
	follow	6.583 (2.392)	6.733 (2.520)	5.250 (2.986)	5.111 (2.977)	5.680 (2.174)	5.524 (1.569)	5.947 (1.747)	5.652 (2.288)	4.828 (1.814)	6.000 (1.871)	5.368 (2.290)	5.963 (1.675)	5.389 (2.725)
	p	n.s.	* (-)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
求 相 談 ・ 支 援 を 求 め る 力	n	13	15	4	9	25	22	18	23	28	26	18	27	18
	pre	7.154 (2.544)	7.133 (2.416)	5.500 (3.317)	6.556 (2.877)	5.840 (1.993)	6.409 (1.563)	6.000 (1.879)	6.000 (1.508)	6.321 (1.964)	5.423 (2.730)	6.500 (2.282)	5.926 (2.385)	5.389 (2.330)
	post	7.385 (2.329)	7.600 (1.882)	5.500 (3.416)	6.444 (2.651)	5.920 (2.448)	7.000 (1.826)	7.056 (2.127)	6.609 (1.828)	6.071 (1.824)	5.769 (2.790)	6.389 (2.500)	6.000 (1.961)	6.056 (2.485)
	follow	7.615 (2.022)	7.467 (2.232)	5.750 (2.630)	6.333 (3.000)	5.880 (2.587)	6.636 (2.105)	7.500 (1.948)	6.783 (2.044)	6.071 (1.961)	5.846 (2.509)	6.667 (2.590)	6.519 (1.988)	5.611 (2.789)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	** (A)	† (-)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

※pre・post・followの数値は平均値（標準偏差）を示している（†p<.01 *p<.05 **p<.01 ***p<.001）
 ※pの記号は、多重比較の結果（A）pre<follow（B）pre<post（C）post<followであったこと、（-）は多重比較では5%水準の有意差が示されなかつたこと、（×）は計算不能であったことを示している
 ※表中の網掛けはpre-postまたはpre-followとの間に5%水準で有意差があった箇所を示している

Table3 クラスごと（低群）の11の資質・能力（個々の児童生徒の力）のpre-post-follow分散分析結果

個々の力	W小5	W小6	X小5	X小6	Y中1A	Y中1B	Y中2A	Y中2B	Y中3A	Y中3B	Z中1	Z中2	Z中3	
マスト レジェ メント 能力	n	4	6	1	5	16	11	9	13	16	13	8	17	8
	pre	5.250 (0.957)	5.000 (0.894)	6.000 (0.000)	4.600 (0.894)	4.625 (1.500)	5.273 (1.009)	5.000 (1.225)	4.923 (1.038)	5.250 (1.612)	5.077 (1.320)	4.625 (1.598)	5.353 (1.115)	5.250 (1.165)
	post	7.750 (1.258)	6.167 (0.753)	7.000 (0.000)	6.800 (1.483)	5.500 (1.789)	6.182 (1.662)	6.667 (1.118)	6.615 (1.193)	5.563 (1.413)	5.308 (1.251)	5.500 (1.773)	6.176 (1.185)	5.500 (0.756)
	follow	7.250 (1.500)	7.167 (1.472)	6.000 (0.000)	6.200 (1.304)	5.813 (1.328)	6.273 (1.489)	7.444 (1.333)	6.692 (1.702)	5.750 (1.183)	5.692 (1.653)	6.750 (1.581)	6.588 (1.734)	5.625 (1.061)
	p	† (-)	* (A)	(×)	† (-)	* (A)	* (-)	** (A)(B)	** (A)(B)	n.s.	n.s.	** (A)	** (A)	n.s.
セル フコ ンテ ント ロー ル	n	2	5	3	5	17	14	10	16	21	15	10	15	11
	pre	5.000 (0.000)	4.200 (1.095)	5.333 (0.577)	3.600 (1.517)	4.706 (1.312)	5.071 (1.207)	4.600 (1.350)	5.000 (1.633)	4.667 (1.592)	4.800 (1.821)	4.500 (1.650)	4.467 (1.506)	5.273 (1.009)
	post	5.500 (0.707)	6.600 (1.817)	6.667 (0.577)	5.200 (2.588)	5.059 (1.819)	5.214 (2.082)	6.000 (2.108)	6.375 (1.668)	4.905 (1.921)	5.400 (1.724)	5.800 (2.044)	5.000 (1.852)	5.727 (0.647)
	follow	6.500 (0.707)	8.200 (0.447)	6.000 (0.000)	5.000 (3.317)	6.176 (1.425)	5.286 (2.555)	7.000 (1.633)	6.313 (1.702)	4.762 (2.119)	5.400 (2.261)	6.200 (2.573)	5.467 (2.066)	6.636 (1.433)
	p	n.s.	*** (A)(B)	* (-)	n.s.	*** (A)(C)	n.s.	** (A)	*** (A)(B)	n.s.	n.s.	* (-)	† (-)	* (-)
自 尊 感 情 ・ 自 己 効 力 感	n	4	2	2	3	12	12	12	14	21	17	8	13	6
	pre	3.500 (2.380)	1.000 (1.414)	4.500 (0.707)	1.667 (0.577)	3.833 (1.030)	3.917 (1.084)	3.917 (0.996)	4.000 (1.710)	3.476 (1.504)	3.824 (1.590)	4.625 (0.744)	4.154 (1.144)	3.500 (1.225)
	post	3.750 (2.630)	7.500 (2.121)	1.500 (0.707)	2.000 (1.732)	4.583 (1.084)	4.583 (2.065)	4.000 (1.809)	4.643 (2.061)	3.429 (1.469)	3.882 (1.799)	5.250 (1.581)	4.769 (1.235)	4.333 (1.211)
	follow	5.750 (1.500)	6.000 (0.000)	2.000 (0.000)	3.000 (1.000)	4.167 (1.528)	4.167 (2.552)	4.667 (2.535)	4.857 (1.994)	3.714 (1.521)	4.353 (1.998)	5.750 (1.909)	4.308 (1.494)	4.000 (1.265)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	† (-)	n.s.	n.s.	† (-)	n.s.	n.s.
道 徳 性	n	3	10	1	5	5	4	5	10	13	13	7	2	5
	pre	4.333 (1.528)	6.100 (1.197)	6.000 (0.000)	5.600 (0.894)	4.800 (0.447)	4.500 (0.577)	3.800 (1.643)	4.100 (0.738)	3.846 (1.463)	3.692 (1.182)	4.286 (0.756)	4.000 (0.000)	4.200 (0.837)
	post	5.667 (2.082)	6.500 (2.121)	7.000 (0.000)	5.600 (2.191)	4.800 (2.950)	5.750 (2.062)	4.000 (2.550)	5.700 (1.947)	4.538 (1.127)	4.538 (1.266)	5.143 (1.574)	5.000 (1.414)	5.200 (1.924)
	follow	7.000 (1.732)	7.200 (1.549)	8.000 (0.000)	6.200 (2.168)	5.000 (1.732)	6.250 (0.500)	5.000 (2.915)	6.200 (1.398)	4.538 (1.127)	4.692 (1.182)	6.000 (1.633)	5.500 (2.121)	5.200 (1.304)
	p	n.s.	* (A)	(×)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	** (A)	n.s.	* (A)	** (A)	n.s.	n.s.
他 思 い や り ・ 理 解	n	3	3	2	3	14	14	7	14	24	19	5	17	9
	pre	6.667 (0.577)	4.333 (2.887)	7.000 (0.000)	3.667 (2.517)	5.143 (0.864)	5.214 (0.802)	5.143 (1.864)	5.143 (1.099)	4.625 (1.313)	4.053 (1.900)	4.000 (2.449)	4.824 (1.131)	5.222 (1.093)
	post	6.667 (1.155)	6.333 (1.528)	7.000 (2.828)	5.000 (1.732)	5.143 (1.610)	5.786 (1.251)	5.571 (2.637)	5.143 (1.460)	4.667 (0.917)	4.474 (1.645)	5.600 (2.702)	4.941 (1.197)	5.111 (1.167)
	follow	6.333 (1.528)	5.333 (1.155)	7.500 (2.121)	7.000 (2.400)	5.714 (1.590)	5.929 (1.542)	5.857 (2.854)	5.714 (0.914)	4.875 (1.154)	4.947 (1.079)	4.400 (1.817)	5.412 (1.417)	5.222 (0.833)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	** (A)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	* (-)	* (-)	n.s.	n.s.
能 力 コ ミ ニ ケ ー シ ョ ン	n	7	6	1	5	9	13	4	7	14	14	3	13	6
	pre	7.714 (0.488)	7.333 (1.211)	8.000 (0.000)	7.800 (0.447)	6.222 (0.667)	6.538 (0.519)	6.000 (0.000)	6.286 (0.756)	6.071 (1.141)	6.143 (1.231)	5.333 (2.082)	6.538 (0.660)	6.500 (0.548)
	post	8.286 (0.756)	8.667 (0.516)	8.000 (0.000)	7.200 (2.168)	6.667 (1.118)	6.615 (0.961)	8.250 (0.957)	6.714 (0.951)	6.071 (1.207)	6.929 (0.917)	5.667 (0.577)	7.077 (0.954)	6.833 (1.329)
	follow	8.143 (1.215)	8.500 (0.837)	9.000 (0.000)	7.000 (2.550)	6.556 (1.236)	7.000 (1.472)	7.500 (0.577)	7.143 (1.069)	6.500 (1.653)	6.429 (1.342)	5.667 (1.528)	6.846 (1.214)	6.667 (0.816)
	p	n.s.	* (A)	(×)	n.s.	n.s.	n.s.	** (A)(B)	† (-)	n.s.	* (B)	n.s.	n.s.	n.s.
表 現 力 思 い や 考 え の	n	5	8	2	4	12	8	6	12	14	14	9	14	10
	pre	4.200 (0.837)	4.000 (1.069)	3.500 (2.121)	3.000 (1.414)	4.083 (0.900)	4.250 (1.165)	4.167 (0.753)	3.833 (1.115)	3.071 (1.730)	3.643 (1.277)	2.889 (1.537)	4.143 (1.231)	3.900 (1.370)
	post	4.200 (2.168)	5.500 (1.927)	4.500 (0.707)	4.500 (1.915)	4.583 (1.311)	5.000 (1.773)	3.833 (1.722)	4.583 (2.021)	3.714 (1.069)	4.500 (1.160)	3.889 (2.522)	4.786 (2.082)	4.100 (1.287)
	follow	5.200 (3.271)	5.750 (2.866)	3.000 (1.414)	3.750 (3.304)	4.167 (1.528)	5.375 (1.598)	4.833 (1.329)	4.333 (1.969)	3.500 (1.345)	5.071 (1.328)	4.222 (2.635)	4.929 (1.439)	3.700 (2.003)
	p	n.s.	† (-)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	† (C)	n.s.	n.s.	** (A)	n.s.	* (-)	n.s.
求 め る 力 相 談 ・ 支 援 を	n	5	4	2	3	12	4	6	8	7	10	5	11	6
	pre	4.800 (2.683)	4.000 (2.708)	3.000 (2.828)	3.000 (2.000)	4.083 (0.669)	3.750 (0.957)	4.000 (0.894)	4.375 (0.518)	3.714 (1.496)	2.700 (2.058)	3.400 (1.140)	3.636 (1.567)	2.667 (1.633)
	post	6.200 (3.114)	5.000 (1.155)	4.000 (4.243)	4.000 (1.000)	4.083 (2.065)	5.750 (2.500)	5.833 (2.317)	5.875 (2.357)	4.286 (1.604)	3.400 (2.221)	3.800 (2.950)	4.636 (1.027)	4.500 (3.507)
	follow	6.000 (2.449)	4.000 (0.816)	4.000 (2.828)	4.000 (2.000)	4.000 (2.216)	6.000 (2.160)	6.167 (2.563)	6.500 (2.204)	4.286 (1.604)	4.300 (2.406)	4.200 (2.683)	5.455 (1.508)	3.333 (3.386)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	* (-)	* (-)	n.s.	** (A)	n.s.	*** (A)	n.s.

※pre・post・followの数値は平均値（標準偏差）を示している（†p<.01 *p<.05 **p<.01 ***p<.001）

※pの記号は、多重比較の結果（A）pre<follow（B）pre<post（C）post<followであったこと、（-）は多重比較では5%水準の有意差が示されなかったこと、（×）は計算不能であったことを示している

※表中の網掛けはpre-postまたはpre-followとの間に5%水準で有意差があった箇所を示している

Table4 クラスごと (全体・低群) の11の資質・能力 (学級集団の力) のpre-post-follow分散分析結果

		全体												
学級の力		W小5	W小6	X小5	X小6	Y中1A	Y中1B	Y中2A	Y中2B	Y中3A	Y中3B	Z中1	Z中2	Z中3
仲間づくり・絆づくりに資する力	n	13	15	4	9	25	23	19	22	29	26	18	27	18
	pre	5.538 (0.967)	5.000 (1.773)	4.750 (1.500)	5.000 (1.323)	5.000 (0.957)	5.087 (0.848)	5.105 (0.994)	5.000 (1.272)	4.207 (1.236)	4.500 (1.105)	5.000 (1.283)	5.148 (1.027)	5.167 (1.098)
	post	5.462 (1.050)	5.667 (0.724)	5.000 (1.414)	5.111 (1.054)	4.960 (1.020)	5.000 (0.853)	5.158 (1.068)	5.136 (1.424)	4.793 (1.236)	4.538 (0.989)	4.944 (1.259)	5.074 (0.874)	5.056 (1.056)
	follow	5.462 (0.776)	5.533 (0.834)	5.500 (1.000)	5.222 (0.667)	5.000 (1.080)	5.043 (1.022)	5.105 (1.243)	4.909 (1.342)	4.552 (1.404)	4.308 (1.258)	5.000 (1.237)	5.074 (1.072)	4.944 (1.110)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
自治集団づくり	n	13	15	4	9	25	23	19	22	29	26	19	27	18
	pre	5.308 (0.947)	4.933 (1.534)	5.500 (0.577)	4.556 (1.667)	4.840 (1.068)	5.043 (0.976)	4.947 (0.970)	4.727 (1.420)	4.379 (1.237)	4.385 (1.023)	5.211 (0.855)	5.000 (1.038)	4.944 (0.873)
	post	5.615 (0.650)	5.533 (0.516)	5.000 (1.414)	4.889 (1.537)	4.840 (1.028)	4.652 (1.027)	5.000 (1.202)	5.000 (0.926)	4.690 (1.039)	4.269 (1.116)	5.211 (0.855)	4.963 (0.980)	4.833 (1.098)
	follow	5.846 (0.376)	5.400 (1.121)	5.250 (0.500)	5.222 (1.093)	4.920 (0.997)	5.000 (0.798)	4.947 (1.311)	4.773 (1.066)	4.586 (1.018)	4.269 (1.151)	5.316 (1.057)	5.037 (0.898)	4.667 (1.328)
	p	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
規律性	n	13	15	4	9	25	23	19	23	29	26	19	27	18
	pre	5.462 (0.660)	5.000 (1.195)	3.750 (0.500)	4.222 (1.093)	4.520 (1.194)	4.174 (0.937)	4.579 (0.961)	4.087 (1.083)	3.897 (1.047)	4.154 (0.834)	4.474 (0.964)	4.593 (0.931)	4.444 (1.042)
	post	5.462 (0.776)	5.000 (0.756)	4.250 (1.708)	3.333 (1.118)	4.120 (1.269)	4.217 (0.998)	4.579 (1.216)	4.261 (1.054)	3.966 (1.349)	4.115 (1.243)	4.211 (0.855)	4.519 (0.700)	4.000 (1.188)
	follow	5.769 (0.439)	5.133 (1.125)	5.000 (1.155)	3.889 (0.782)	4.440 (1.003)	4.348 (1.027)	4.737 (1.284)	4.565 (0.788)	4.000 (1.134)	4.115 (1.211)	4.368 (1.300)	4.556 (0.751)	4.000 (1.328)
	p	† (-)	n.s.	n.s.	† (-)	*	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*

		低群												
学級の力		W小5	W小6	X小5	X小6	Y中1A	Y中1B	Y中2A	Y中2B	Y中3A	Y中3B	Z中1	Z中2	Z中3
仲間づくり・絆づくりに資する力	n	3	5	2	4	11	7	6	8	19	15	5	7	4
	pre	4.000 (1.000)	3.000 (1.871)	3.500 (0.707)	3.750 (0.957)	4.000 (0.000)	4.000 (0.000)	3.833 (0.408)	3.625 (1.061)	3.579 (1.017)	3.733 (0.704)	3.400 (1.342)	3.714 (0.756)	3.500 (1.000)
	post	3.667 (0.577)	5.200 (1.095)	5.500 (0.707)	4.750 (1.258)	4.000 (0.447)	4.143 (0.378)	4.833 (1.329)	4.375 (2.066)	4.263 (1.195)	4.067 (0.799)	3.400 (1.342)	4.143 (0.378)	3.750 (0.500)
	follow	4.333 (0.577)	5.200 (1.095)	5.000 (1.414)	4.750 (0.500)	4.182 (0.603)	4.286 (0.951)	4.000 (1.414)	3.750 (1.488)	4.053 (1.311)	3.867 (1.246)	4.200 (1.789)	3.857 (1.069)	3.750 (0.500)
	p	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
自治集団づくり	n	6	9	2	6	9	8	7	7	16	18	3	9	5
	pre	4.500 (0.837)	4.222 (1.641)	5.000 (0.000)	3.833 (1.602)	3.667 (0.707)	3.875 (0.354)	3.857 (0.378)	3.143 (1.464)	3.563 (1.031)	3.778 (0.428)	3.667 (0.577)	3.778 (0.667)	3.800 (0.447)
	post	5.333 (0.816)	5.222 (0.441)	4.000 (1.414)	4.333 (1.633)	4.000 (0.500)	4.000 (0.756)	4.000 (1.291)	4.571 (1.134)	4.250 (1.000)	3.944 (0.938)	4.333 (0.577)	4.556 (1.014)	4.000 (0.707)
	follow	5.833 (0.408)	5.000 (1.323)	5.000 (0.000)	4.833 (1.169)	4.111 (0.782)	4.625 (0.744)	3.714 (1.254)	4.000 (1.155)	4.125 (1.025)	3.778 (0.878)	4.333 (1.528)	4.778 (0.833)	3.600 (1.517)
	p	*	n.s.	n.s.	**	n.s.	† (-)	n.s.	**	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.
規律性	n	1	5	4	4	11	17	10	17	23	20	8	13	11
	pre	4.000 (0.000)	3.600 (0.894)	3.750 (0.500)	3.250 (0.957)	3.455 (0.934)	3.706 (0.470)	3.800 (0.422)	3.588 (0.712)	3.565 (0.896)	3.800 (0.523)	3.500 (0.535)	3.769 (0.439)	3.727 (0.467)
	post	4.000 (0.000)	4.400 (0.548)	4.250 (1.708)	3.000 (1.155)	3.273 (1.104)	4.000 (0.866)	4.200 (1.229)	3.882 (0.928)	3.957 (1.261)	3.750 (1.070)	3.875 (0.641)	4.154 (0.555)	3.364 (0.924)
	follow	5.000 (0.000)	4.600 (1.517)	5.000 (1.155)	3.750 (0.957)	3.909 (0.944)	4.059 (0.899)	4.500 (1.269)	4.294 (0.686)	3.783 (1.043)	3.800 (1.105)	3.750 (1.389)	4.385 (0.650)	3.364 (1.027)
	p	(×)	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	**	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.

※pre・post・followの数値は平均値 (標準偏差) を示している (†p<.01 *p<.05 **p<.01 ***p<.001)
 ※pの記号は、多重比較の結果 (A) pre<follow (B) pre<post (C) post<followであったこと、(-) は多重比較では5%水準の有意差が示されなかったこと、(×) は計算不能であったことを示している
 ※表中の網掛けはpre-postまたはpre-followとの間に5%水準で有意差があった箇所を示している

その結果、W小5において「自治集団づくりに資する力」($F(2,10)=5.213, p<.05, \eta^2=.510$), W小6において「ストレスマネジメント能力」($F(2,10)=6.684, p<.05, \eta^2=.572$)「セルフコントロール能力」($F(2,8)=29.659, p<.001, \eta^2=.881$), 「道徳性」($F(2,18)=4.249, p<.05, \eta^2=.321$)「コミュニケーション能力」($F(2,10)=5.588, p<.05, \eta^2=.528$), X小6において「思いやり・他者理解」($F(2,4)=19.000, p<.01, \eta^2=.905$), 「自治集団づくりに資する力」($F(2,10)=9.000, p<.01, \eta^2=.643$), Y中1Aにおいて「ストレスマネジメント能力」($F(2,30)=3.462, p<.05, \eta^2=.188$)「セルフコントロール能力」($F(2,32)=9.630, p<.001, \eta^2=.376$),

「規律性」($F(2,20)=4.756, p<.01, \eta^2=.322$), Y中2Aにおいて「ストレスマネジメント能力」($F(2,16)=7.676, p<.01, \eta^2=.490$), 「セルフコントロール能力」($F(2,18)=7.348, p<.01, \eta^2=.449$), 「コミュニケーション能力」($F(2,6)=14.538, p<.01, \eta^2=.829$), Y中2Bにおいて「ストレスマネジメント能力」($F(2,24)=9.176, p<.001, \eta^2=.433$), 「セルフコントロール能力」($F(1.437,21.551)=9.031, p<.001, \eta^2=.376$), 「道徳性」($F(2,18)=7.573, p<.01, \eta^2=.457$), 「自治集団づくりに資する力」($F(2,12)=8.000, p<.01, \eta^2=.571$), 「規律性」($F(2,32)=7.032, p<.01, \eta^2=.305$), Y中3Bにおいて「道徳性」($F(2,24)=4.900, p<.05, \eta^2=.290$), 「コミュニケーション能力」($F(2,26)=3.406, p<.05, \eta^2=.208$), 「思いや考えの表現力」($F(2,26)=7.571, p<.01, \eta^2=.368$), 「相談・支援を求める力」($F(2,18)=8.391, p<.01, \eta^2=.482$), Z中1において「ストレスマネジメント能力」($F(2,14)=12.264, p<.001, \eta^2=.637$), 「道徳性」($F(2,12)=8.000, p<.01, \eta^2=.571$), Z中2において「ストレスマネジメント能力」($F(2,32)=5.396, p<.01, \eta^2=.252$), 「相談・支援を求める力」($F(2,20)=12.088, p<.001, \eta^2=.547$), 「自治集団づくりに資する力」($F(2,16)=4.743, p<.05, \eta^2=.372$), 「規律性」($F(2,24)=5.495, p<.05, \eta^2=.314$)の資質能力得点に有意な差が認められた。多重比較を行ったところ, Y中1Aの「規律性」はpostと比較してfollowが有意に高まっていたが, その他はいずれも資質能力得点がpreと比較してpostまたはfollowが有意に高く, 13クラス中9クラスにおいてpreを基準にいずれかの資質能力得点の向上が見られた。

preのCoCoLo-34の結果で課題と確認された資質・能力(以下, 課題資質能力)において全体・低群いずれかで有意にpreより資質能力得点が高くなったクラスは, 13クラス中7クラスであった。また, 教員が課題に基づいて選択した授業案の主たるねらいであった資質・能力(以下, ねらい資質能力)の得点において全体・低群のいずれかで有意にpreより高くなったクラスは認められなかった(Table5)。

Table5 クラスごとの実施状況と結果の一覧

No.	クラス	対象	CoCoLo-34による11の資質・能力の課題と結果											授業の効果(教員アンケート)	
			個々の児童生徒の力						学級集団の力					能力向上	児童生徒に見られた変化
			ストレスマネジメント能力	セルフコントロール能力	自尊感情・自己効力感	道徳性	思いやり・他者理解	コミュニケーション能力	思いや考えの表現力	相談・支援を求める力	仲間づくり・絆づくりに資する力	自治集団づくりに資する力	規律性		
1	W小5	課題 ねらい 全体 低群			○		△		○	○				ねらいのみ向上	【ねらいに対する変化】 言動に改善が見られた
2	W小6	課題 ねらい 全体 低群	○		○		△	△	○					ねらいのみ向上	【ねらいに対する変化】 今まで話さなかった人が, 声をかけるようになった。
3	X小5	課題 ねらい 全体 低群	○	○			△	△	○					その他	あまり変化は見られなかった。相談するという経験そのものが少ないので, どうしたら良いのか表面的な考えしか出なかった印象。
4	X小6	課題 ねらい 全体 低群		○	○		△		○			△		他も向上	友人同士の関係の良化に繋がった。繰り返し定期的に行う(席替え後など)ことでより効果的になると感じた
5	Y中1A	課題 ねらい 全体 低群	○	○			△	△	○	○			C	他も向上	【ねらいに対する変化】 ことばに対する助言が聞こえた。
6	Y中1B	課題 ねらい 全体 低群	○		○		A		○	△				向上は感じない	見られなかった
7	Y中2A	課題 ねらい 全体 低群		○	○	○				○				他も向上	【雰囲気の変化】 クラスの雰囲気が少し明るくなった感じがした。笑顔になる生徒が増えた。
8	Y中2B	課題 ねらい 全体 低群		○	○		△	△	△	○				他も向上	【ねらいに対する変化】 同じ悩みや悩み方をもつ仲間と関わりを深めることができていた。
9	Y中3A	課題 ねらい 全体 低群	△	○			△			○			B	他も向上	見られなかった
10	Y中3B	課題 ねらい 全体 低群					○	△	○					他も向上	【ねらいに対する変化】 言葉がやわらかくなった生徒の姿が見られた。
11	Z中1	課題 ねらい 全体 低群	○				△	△	○	○				ねらいのみ向上	【ねらいに対する変化】 一部の生徒だが「断ってもいいんだ」と断ることを前向きにとらえる生徒が出てきた。
12	Z中2	課題 ねらい 全体 低群	△	○	○		○	△		○				ねらいのみ向上	【ねらいに対する変化】 他者の言動を注意する生徒が増えた。
13	Z中3	課題 ねらい 全体 低群					△	△	○	○				他も向上	見られなかった

※対象欄の「課題」は事前のCoCoLo-34の結果シートで課題と確認された資質・能力を示している
 ※対象欄の「ねらい」は実施した授業案のねらいとなる資質・能力を示しており, ○は主たるねらいを, △は副次的なねらいを示している
 ※対象欄の「全体」はCoCoLo34のpre-post-followにおける分散分析で有意差($p<.05$)が示されたものを示しており, 「低群」は低群において同様に示している
 ※「全体」「低群」に示された記号は, A:pre<follow B:pre<post C:post<followを示している
 ※網掛けの部分は「全体」または「低群」でAまたはBと示したもののうち, 「課題」と一致しているものを示している

4.2 教員の主観による児童生徒の変化

教員用アンケートにおける「今回の授業で、児童生徒の資質・能力の向上がどの程度感じられましたか」の問いに対して選択肢の中から教員の主観による見取りに最も近いものとして選択された結果をTable5に示す。回答が得られた13名中「ねらいとした資質・能力のみが向上したと感じた」と回答した教員が4名、「ねらいとした資質・能力だけでなく、他の資質・能力も向上したと感じた」と回答した教員が7名、「いずれの資質・能力もほとんど向上を感じなかった」と回答した教員が1名であった。児童生徒用アンケートであるCoCoLo-34における結果と見解が一致したのは3クラス（Y中2A, Y中3A, Y中3B）であった。

「今回の授業のあと、児童生徒の様子や言動にどのような変化が見られましたか」の問いに対する自由記述には、13名中8名から具体的な変化が記された（Table5）。例えば「適切な表現方法」の授業を実施した教員からは「言葉に対する助言が聞こえた」、「様々な自己表現を知ろう」の授業を実施した教員からは「言葉が柔らかくなった生徒の姿が見られた」など、その授業のねらいに対する言動の変化に関する記述が8名中7名から得られた。残る1名からは「クラスの雰囲気少し明るくなった感じがした。笑顔になる生徒が増えた。」とクラス全体の雰囲気の向上に関する記述が得られた。

4.3 いじめ防止意識との関連

本プログラムのねらいとなる11の資質・能力の向上と児童生徒のいじめ防止意識の変化との関連を確かめた。ただし、『個々児童生徒の力』に属する8つの資質・能力のほぼすべての資質・能力間において $r=.340\sim.662$ の中程度以上の相関があり、『学級集団の力』に属する3つの資質・能力間のすべての資質・能力間においても $r=.409\sim.695$ の中程度以上の相関があったため、それらをまとめて算出するものとした。『個々の児童生徒の力』（『個々の児童生徒の力』に属する8つを標準化した資質能力得点の合計）と『学級集団の力』（『学級集団の力』に属する3つを標準化した資質能力得点の合計）のそれぞれのfollowの得点からpreの得点を減じた変化量と、CoCoLo-34の「加害」「被害」「個人傍観」「学級傍観」の項目得点のそれぞれにおけるfollowの得点からpreの得点を減じた変化量（値が小さいほどポジティブな方向の変化を示す）についてpearsonの相関係数を算出した（Table6）。その結果、『個々の児童生徒の力』と「被害」（ $r=-.184, p<.01$ ）及び「学級傍観」（ $r=-.124, p<.05$ ）との間、『学級集団の力』と「被害」（ $r=-.134, p<.05$ ）及び「学級傍観」（ $r=-.401, p<.01$ ）との間に、それぞれ低～中程度の負の相関が示された。

Table6 包括的な資質・能力といじめ防止意識の変化

		いじめ防止意識の変化量			
		加害	被害	個人傍観	学級傍観
包括的な 資質・能力 の変化量	個々の児童 生徒の力	r .082	-.184**	-.018	-.124*
	n	261	259	253	255
	学級集団 の力	r -.050	-.134*	.068	-.401**
	n	261	259	253	255

※† $p<.01$ * $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

※負の値の相関係数は、いじめ防止意識のポジティブな変化との関連を示す
※網掛け部分は5%水準で相関が示された箇所を示す

5 考察

本研究の目的は、本プログラム実施による児童生徒の11の資質・能力及びいじめ防止意識の変化を検証し、生徒指導の枠組みにおける本プログラムの適用の可能性について考察することであった。

5.1 11の資質・能力の変化

5.1.1 ねらい資質能力の変化

教員アンケートによる教員の主観による報告では、13名のうちX小5とY中1Bを除く11名（85%）からねらいとした資質・能力の向上が感じられたとの回答が得られ、そのうちX小6, Y中3A, Z中3を除く8名の教員からは授業実施後にねらいに対する具体的な児童生徒の行動の変化が報告された。しかし一方で、CoCoLo-34の結果を用いた分散分析の結果からは、全体または低群いずれかにおいて、課題資質能力の得点に向上が見られたクラスは13クラス中7クラスあったものの、選択した授業案の主たるねらいの資質能力得点の向上が示されたクラスは認められなかった。

ねらい資質能力は他の資質・能力と比較して相対的に低い資質・能力であり、もともとそのクラスにとって向上しづらい資質・能力であったと考えられる。そのため、ねらい資質能力はCoCoLo-34の前後比較の結果で有意差が認められるほどの向上には至らなかったものの、11の資質・能力には互いに中程度以上の相関があることから、そのクラスにとって比較的向上しやすい他の資質・能力が有意に高まった可能性があると考えられる。そうとはいえ、教員の視点からは、プログラム実施前後における児童生徒の言動や状況に変化が観察されたとしても、児童生徒のアンケー

ト結果に反映されていないという結果を鑑みると、今回の実践においては本プログラムによってねらいとした資質・能力が向上したとは言い難い結果となった。

今回、Y中1BとY中2Aは「十年後の未来日記」、Y中3AとZ中2は『「考え方のクセ」を考えてみよう』という同じ授業案が選択されて実践を行っている。本授業の主たるねらいとして前者は「自尊感情・自己効力感」、後者は「セルフコントロール能力」の向上がそれぞれ設定されていたが、いずれもねらいの資質・能力に変化は認められなかった。一方で、本授業の実施により、Y中1BとZ中2では課題資質能力の得点において向上が認められ、Y中2AとY中3Aは課題資質能力の得点に向上は認められなかった。クラスの課題となっている資質・能力に対する効果には相違があり、必ずしもコンテンツのねらいのみに影響を及ぼすというわけではない。11の資質・能力には相互に相関が示されており、プログラム実施による効果は多様であると考えられる。一方で、CoCoLo-34などによるねらいの設定は、当該クラスの課題であるともいえるため、ねらいの達成に向けた取り組みの必要性は高い。

久保(2014)は、海外におけるいじめ予防を目的とした3つの主要なプログラムの比較検討を行い、いずれのプログラムにおいても特に強調されているのは教員の意識変革の重要性であると明示し、各プログラムの最初の段階ではいじめの実態や問題についてまず教員らが学ぶ研修や会議が含まれており、これがプログラム全体の成否に関わると報告している⁽¹⁶⁾。また、岡沢(2008)は、SSTとSGEを用いた授業実践の報告において、学級や児童の状態を見つめ、何をどのように実施するとより効果的か、よく検討する必要があると述べている⁽¹⁷⁾。本プログラムの実践においてねらいと設定した資質・能力を高めるためには、事前の研修や会議、あるいは本プログラムに付属している「教師用映像補助資料」を視聴するなどして、例えば、授業のねらいや展開方法に対する教員の理解を進めたり、対象となる児童生徒の特性や学級の状況に合わせた展開の工夫を考え展開を最適化させたりするなど、コンテンツの内容の検討に加えて、コンテンツの活用の仕方なども合わせて検討していくことも求められると考えられる。

今回の実践においては、授業の目的に呼応した結果が得られなかった。今回の結果より、今後本プログラムがいじめ防止を図るためのより適切なコンテンツとなるための留意点を示したうえでの実践研究の継続が求められる。いじめを課題とした課題未然防止教育への本プログラムの適用にはさらに検証を重ねる必要がある。

5. 1. 2 課題資質能力の変化

CoCoLo-34の結果を用いた分散分析の結果、13クラスのうちW小6、Y中1A、Y中2A、Y中2B、Y中3B、Z中1、Z中2の7クラス(54%)においては全体または低群いずれかにおいて授業実践後の課題資質能力の得点の向上が認められた。実施した授業のねらいとは異なる項目に関する効果である場合も含めて、クラスの課題となる資質・能力が向上したこれらの7クラスは11の資質・能力のバランスの改善という本プログラムのねらいの観点においては包括的な資質・能力の向上に一定の効果が認められたものと考えられる。また、W小5、X小6、Y中1B、Y中3Aの4クラスでは全体または低群いずれかにおいて課題ではない資質能力得点の向上が認められており、課題資質能力が向上した先の7クラスを含めると13クラス中の計11クラス(85%)においていずれかの資質能力得点の向上が認められた。一方では、日々のさまざまな発達支持的生徒指導の取組が、さまざまな関係性改善や個人の成長に関与することもあり、それらが総合的に影響し合っているいじめの未然防止が進められると考えられる。日常的な教育活動の中に本プログラムがどのように関与できるかという視点を持つことも必要であると考えられる。

本プログラムは、いじめ問題を直接取り扱うのではなく、いじめ関係につながる恐れがあるような児童生徒の関係性を改善する内容や、いじめの構造に巻き込まれてしまわないような自分自身の構築への支援を行うことにつながる内容をもった授業実践の提案が多くを占めている⁽¹⁸⁾。このような構成であることから、本プログラムは、個々の児童生徒の基礎的な資質・能力の向上や学級集団の社会性向上を通していじめ未然防止を目指すという、育てる生徒指導の観点や目的に根差す包括的な発達支持的生徒指導の観点を持っているといえる。今回の実践で13クラス中11クラスにいずれかの資質・能力の向上が示されたことは、本プログラムの実践が発達支持的生徒指導の枠組みにおける日常的な取組として活用できる可能性が示唆されたと考えられる。

5. 1. 3 いじめ防止意識との関連

11の資質・能力を包括した『個々の児童生徒の力』と『学級集団の力』の資質能力得点の変化量といじめ防止意識の変化量との相関を求めたところ、『個々の児童生徒の力』『学級集団の力』ともに、「被害」及び「学級傍観」との間にそれぞれポジティブな相関関係が示された。『個々の児童生徒の力』と『学級集団の力』が向上すること、児童生徒のいじめを防止する意識が高まることと関連が示されたと考えられ、11の資質・能力を包括的に向上させることでいじめ防止意識の向上が期待できることが示されたものと考えられる。

5. 1. 4 本プログラムの学校での活用

本プログラムは予め決められた複数の授業をマニュアルに沿って手順通りに進めるのではなく、クラスの個別の課題解決に即した授業案を教員が選択し、内容を現状に応じて適宜変更しながら実施するという実施に際しての前提を

加味して設計されている。一方では、CoCoLo-34によるアセスメントとのセットで実施する形式であるため、比較的効率よく資質・能力のバランス改善に取り組むことが可能となるツールであるともいえる。学級開きや行事前といった児童生徒同士の関係性に危機が予想される際に実施して関係構築への学びにつなげたり、定期的にアセスメントと授業実践を繰り返し実施することで年間を通じたクラスづくりに生かせたりするなど、学校のニーズに応じた柔軟な活用方法が想定され、日常的な発達支持的生徒指導を効果的に推進させる一助となり得ると考えられる。日常的な発達支持的生徒指導で本プログラムを活用することで、『個々の児童生徒の力』と『学級集団の力』を包括的に向上させ、いじめ防止意識の向上が図られるものと考えられる。

6 成果と課題

今回の調査では、本プログラムを実践した13クラス中7クラスに課題と判定された資質・能力に変化が見られ、課題ではない資質・能力に変化が見られた4クラスも含めて、11クラスに効果を見いだすことができた。これらの結果などから、本プログラム実施による11の資質・能力の向上への一定の効果が示され、本プログラムの発達支持的生徒指導への適用の可能性が示唆されたとともに、課題予防的生徒指導への適用に対する考察が進められた。また、本プログラムのねらいとする11の資質・能力の向上にいじめ防止意識のポジティブな変化との関連があることが示された。これらの知見は生徒指導の枠組みとしての本プログラムの活用の可能性と有効性を示唆しており、改訂版の生徒指導提要で示された生徒指導の2軸3類4層構造における具体的な取組の在り方として学校現場に提案できるものであると考える。

本研究の課題としては、いじめに関する態度と本プログラムの関連を明らかにしていくことが挙げられる。本プログラムの実施と児童生徒のいじめに関する態度との関連を長期的に省察し、児童生徒の関係性の変遷について検討していくことが求められる。今後は、小学校低・中学年にも調査対象を広げ、効果検証を継続的、さらには縦断的に実施していく必要があると考える。

謝辞

本研究の実施に際し、快く実践並びに調査に協力していただいた協力校の校長先生をはじめ、児童生徒の皆様、そして実践教員の皆様に心からの謝意を申し上げます。

引用文献

- (1)村山恭朗・伊藤大幸・浜田恵・中島俊思・野田航・片桐正敏・高柳伸哉・田中義大・辻井正次(2015)「いじめ被害・被害と内在化/外在化問題との関連性」『発達心理学研究』26(1), pp.13-22.
- (2)田中美子(2009)「いじめ発生及び深刻化のシステム論的考察」『千葉商大論叢』47(1), pp.31-63.
- (3)吉川延代・今野義孝・会沢信彦(2012)「いじめの被害-被害体験と自尊感情との関係-大学生を対象にした週及的調査研究-」『人間科学研究』34, pp.169-182.
- (4)文部科学省(2023)『令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要』<https://www.mext.go.jp/content/20231004-mxt_jidou01-100002753_1.pdf>(2023年12月10日最終アクセス)
- (5)文部科学省(2022)『生徒指導提要』<https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf>(2023年12月10日最終アクセス)
- (6)安藤美華代(2008)『小学生の問題行動・いじめを予防する!心の健康教室“サクセスフル・セルフ”実施プラン』明治図書.
- (7)小泉令三(2011)『社会性と情動の学習(SEL-8S)の導入と実践』ミネルヴァ書房.
- (8)山崎勝之・戸田有一・渡辺弥生(2013)『世界の学校予防教育-心の健康と適応を守る各国の取り組み』金子書房.
- (9)日野陽平・林尚示・佐野秀樹(2019)「いじめの心理学的・社会学的要因と予防方法-先行研究のレビューと政策・実践・研究への提言-」『東京学芸大学紀要』70(1), pp.131-158.
- (10)兵庫県教育委員会(2015)『いじめ未然防止プログラム』<[https://www.hyogo-c.ed.jp/~kenshusho/07kokoro/ijimemizen/page1\(2016\).html](https://www.hyogo-c.ed.jp/~kenshusho/07kokoro/ijimemizen/page1(2016).html)>(2023年12月10日最終アクセス)
- (11)寺戸武志・堀井美佐(2015)「いじめ未然防止プログラムの研究-実態調査を踏まえた実践的プログラムの作成-」『兵庫県立教育研修所研究紀要』125, pp.1-12.

- (12) 秋光恵子・松本剛・古川雅文・北川真一郎・寺戸武志・阿部浩士・堀井美佐 (2016) 「学校におけるいじめ未然防止プログラムのための包括的測定尺度開発の試み」『兵庫教育大学研究紀要』48, pp.21-28.
- (13) 寺戸武志・秋光恵子・松本剛 (2019) 「学校におけるいじめ未然防止プログラムのための包括的測定尺度の改訂－信頼性・妥当性の検討と尺度の活用方法の考察－」『ストレスマネジメント研究』15(1), pp.2-12.
- (14) 泉村靖治・寺戸武志・福田裕子 (2022) 「いじめ未然防止に生かせる小学校低・中学年用アセスメントツールの開発－『いじめ未然防止プログラム』の利便性向上に関する研究－」『兵庫県立教育研修所研究紀要』132, pp.57-73.
- (15) 寺戸武志・永浦拓 (2020) 「対人ストレスに焦点を当てた『いじめ未然防止プログラム』の実践過程－小学4年生を対象に－」『発達心理臨床研究』26, pp.13-21.
- (16) 久保順也 (2014) 「児童生徒間における「いじめ」防止のための介入プログラムの展望－主要3プログラムの比較による考察－」『宮城教育大学紀要』49, pp.247-255.
- (17) 岡沢雅子 (2008) 「学級におけるよりよい人間関係づくりを目指した取組」『教育実践研究』18, pp.163-168.

Implementation of a “Bullying Prevention Program” in Elementary and Junior High Schools:

Discussion of the effectiveness of program implementation and Application to
Guidance and counseling.

Takeshi TERADO* · Hiromu NAGAURA** · Tsuyoshi MATSUMOTO*** · Keiko AKIMITSU***

ABSTRACT

This study aimed to examine changes in students' 11 qualities and abilities, as well as their awareness of bullying prevention, after implementing the “Bullying Prevention Program.” It also aims to consider how this program could be applied to the revised student guidance framework. The program was tested and investigated with 54 students in 4 upper elementary school classes and 252 students in 9 middle school classes, and 13 teachers who instructed each class. Each class's variance was analyzed separately. The findings revealed that none of the classes improved in any of the qualities or abilities that were the classes' objectives, but 11 of the 13 classes improved in one of the qualities and abilities. Furthermore, a positive correlation was found between improving the 11 qualities/abilities and raising awareness about bullying prevention. These findings suggest that the program can improve the 11 qualities and abilities. The program's application in developmentally supportive and problem-preventive student guidance was also discussed.